

[B] 「大和政権の官道」

皆の広場 素人の歴史考①⑥

- * **(大和政権の官道)**

- * **[1]大和王権の国造り**

- * **[2]古代の畿内官道**

- * **[3]古代の大和川**

- * **H27. 1. 14 シ18 永野 徹**

[1] 大和政権の国造り (3 C ~ 8 C)

- * (1) 初期の天皇系譜(神武～応神)
- * (2) 四道将軍派遣(崇神天皇10年・3C末)
- * (3) 景行天皇九州遠征(
- * (4) 日本武尊東征(日本書紀、4世紀初)
- * (5) 五畿七道(律令時代・7C半)

(1)初期天皇(1C~4C):系譜記入年代は識緯説で間違い

□天皇の略系譜(記紀の時代)

代	天 皇	在位期間	記 事				
1	神武天皇BC(660~585)		創作上の初代天皇？、東征開始(BC667)高千穂~大和 神日本磐余彦尊(カムヤマトイワレヒコ)、大和征服(初めて国を治めた王？) ○欠史八代(天皇八代創作)八人の天皇は実在せず？の可能性大、欠史八代御陵は葛城地方				
2	綏靖天皇BC(581~549)		すいぜい	御陵地？	橿原		
3	安寧天皇BC(581~511)		あんねい	〃	橿原		
4	懿徳天皇BC(510~477)		いとく	〃	橿原		
5	孝昭天皇BC(475~393)		こうしょう	〃	御所		
6	孝安天皇BC(392~291)		こうあん	〃	御所		
7	孝霊天皇BC(290~215)		こうれい	〃	王寺	皇子	吉備津彦
8	孝元天皇BC(214~158)		こうげん	〃	橿原	皇子	大彦命、孫:武渟川別命
9	開化天皇BC(157~98)		かいか	〃	春日	皇子	丹波道主
10	崇神天皇BC(97~30)		全国統一(四道将軍派遣)、疫病流行(BC93)、実在の初代天皇？ 三輪山(オオモノシ)				
11	垂仁天皇BC29~AD70		天日槍(アメノヒボコ)但馬渡来、タジマモリ:常世の国からカグ実持ち帰る 伊勢神宮(天照鎮座)創設、相撲創設、埴輪伝承				
	景行天皇(71~130)		皇子:日本武尊、蝦夷征伐、九州行幸(福岡、宮崎、熊本、大分)				

(2) 四道将軍派遣 (崇神天皇：3世紀末頃)

日本書紀(崇神大王10年)：大和朝廷は四道に将軍を派遣

※「教えを受けない者があれば兵を挙げて撃つように」と将軍の印綬を授ける

・4世紀の前方後円墳の伝搬地域と重なる事から単なる神話では無い。

- (A) 丹波道：丹波道主命(9代開花天皇皇子)
- (B) 西海道：吉備津彦命(7代孝靈天皇皇子)
- (C) 東海道：武渟川別命(大彦命の子)
- (D) 北陸道：大彦命(8代孝元天皇第一皇子)

※古事記によれば北陸道平定・大彦命と東海道平定・武渟川命の合流点を会津と銘名

・大彦命は埼玉県の稲荷山古墳の鉄剣に見える「ヲケ臣の上祖オホヒコ」と同一人物説が有望。

(2)-1

四道將軍派遣地 (崇神10年:3世紀半)

丹波道:丹波道主命

西海道:吉備津彥命

東海道:武渟川別命

北陸道:大彥命

四道將軍霸權道

(日本書紀:崇神10年)



(3) 景行天皇・九州初遠征 (3C末~4C初)

日本書紀(景行12年~九州遠征)

* 一九州は小国家分立状態一

- * (景光12年): (若井説: 謎の九州王権)
- * 9月: 周防~豊前国
- * (豊前) 神夏磯媛(長峽)を見方
- * 10月: 別府~竹田~大野
- * (豊後) 速津媛を御方に
- * 11月: 日向国(西都)
- * 12月: 襲を平定
- * (景光17年) 高屋~子湯~夷守
- * (景光18年) 夷守~熊国平定~火国
- * 八代~島原(高来)~阿蘇~
- * 御木(筑後国)~大牟田~
- * 八女~的(浮羽)~高羅~
- * 日田~宇佐へ



(4) ヤマトタケル記紀伝承 (4C初)

(大和政権の国造り)

(⑫景行天皇の第2皇子、⑭仲哀天皇の父)

1. (西征) ・女装で九州・熊襲建を征伐し、「倭建命」と名乗る。
・その後、各地を平定しながら「出雲建」も征伐した。
2. (東征) ・「倭比売」から「草薙剣」・「火打石」を受領。
 - ・焼津： 相模の国司に火責めに会うが討伐(この地を焼津)
 - ・熱田： 帰路尾張で美夜受比売と結婚(熱田神宮：草薙剣)
 - ・死傷： 伊吹山で致命傷。(伊吹山頂ヤマトタケル像)
 - ・終焉： 三重能煩野(のぼの)で終焉。彼の魂は白鳥となり、大和琴弾原～河内古市に白鳥陵。

(大和武尊：ヤマトを慕う終焉の詠)

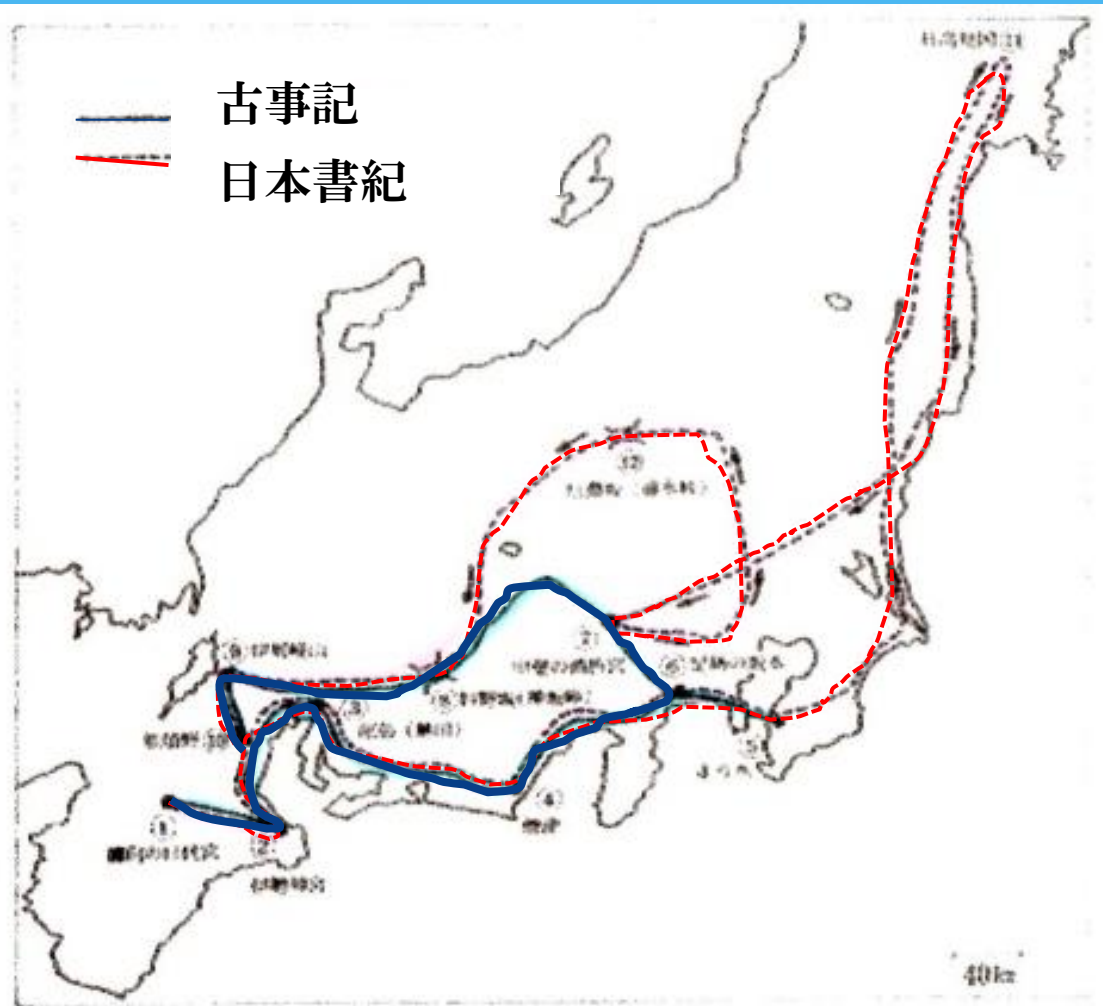
「大和は国のまほろば、たたなづく青垣 山ごもれる やまとしうるわし」

1) ヤマトタケル全国遠征 (古事記)



2) 記紀東征ルート比較(古事記vs日本書紀)

※父・景行天皇の命で西征(九州クマソ・出雲タケル)帰還後、東国討伐命へ



日本武尊東征経路図

3) ヤマト・タケル東征図(日本書紀)

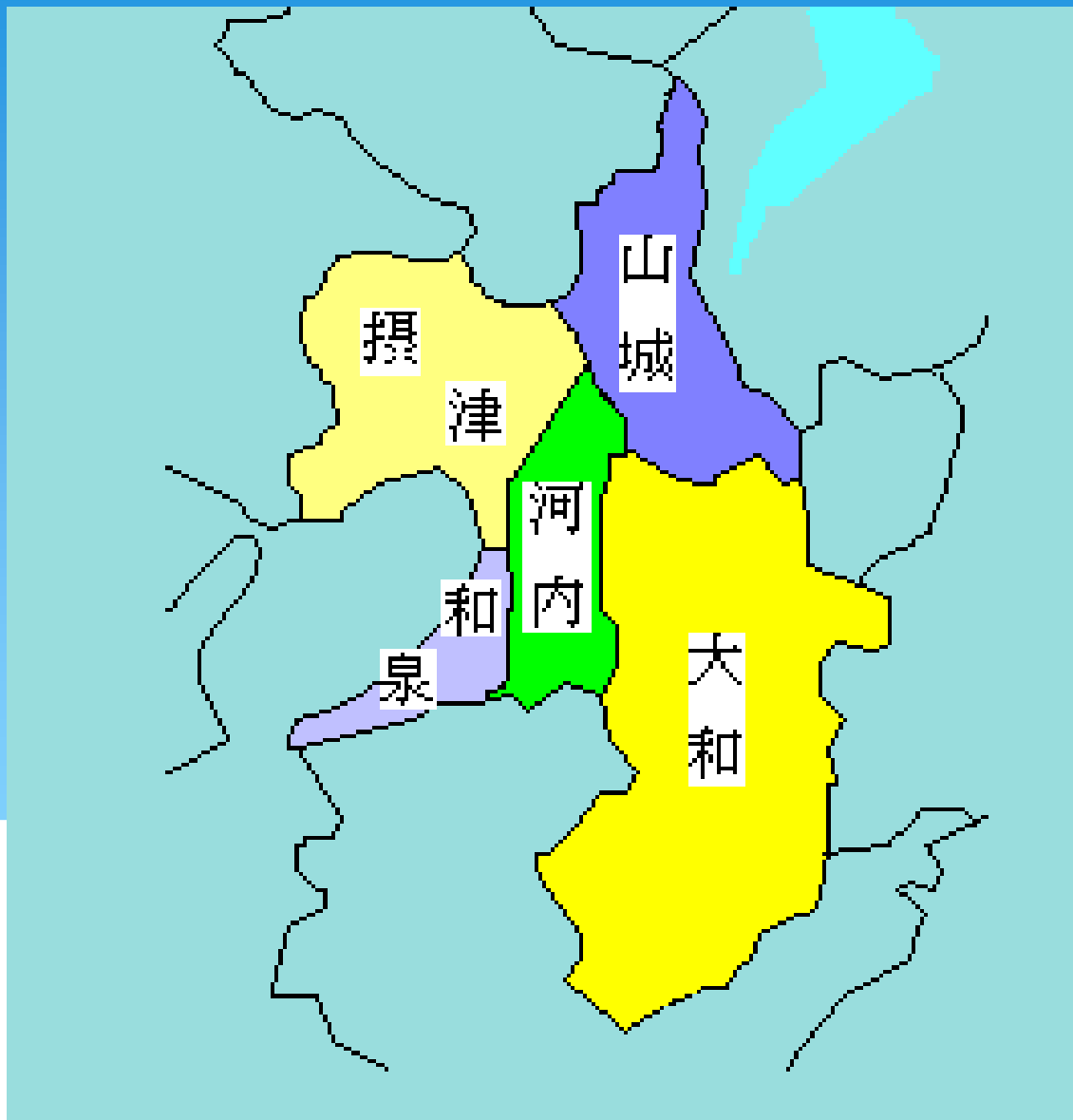


(5)五畿七道 (律令の七道駅路制:7世紀半)

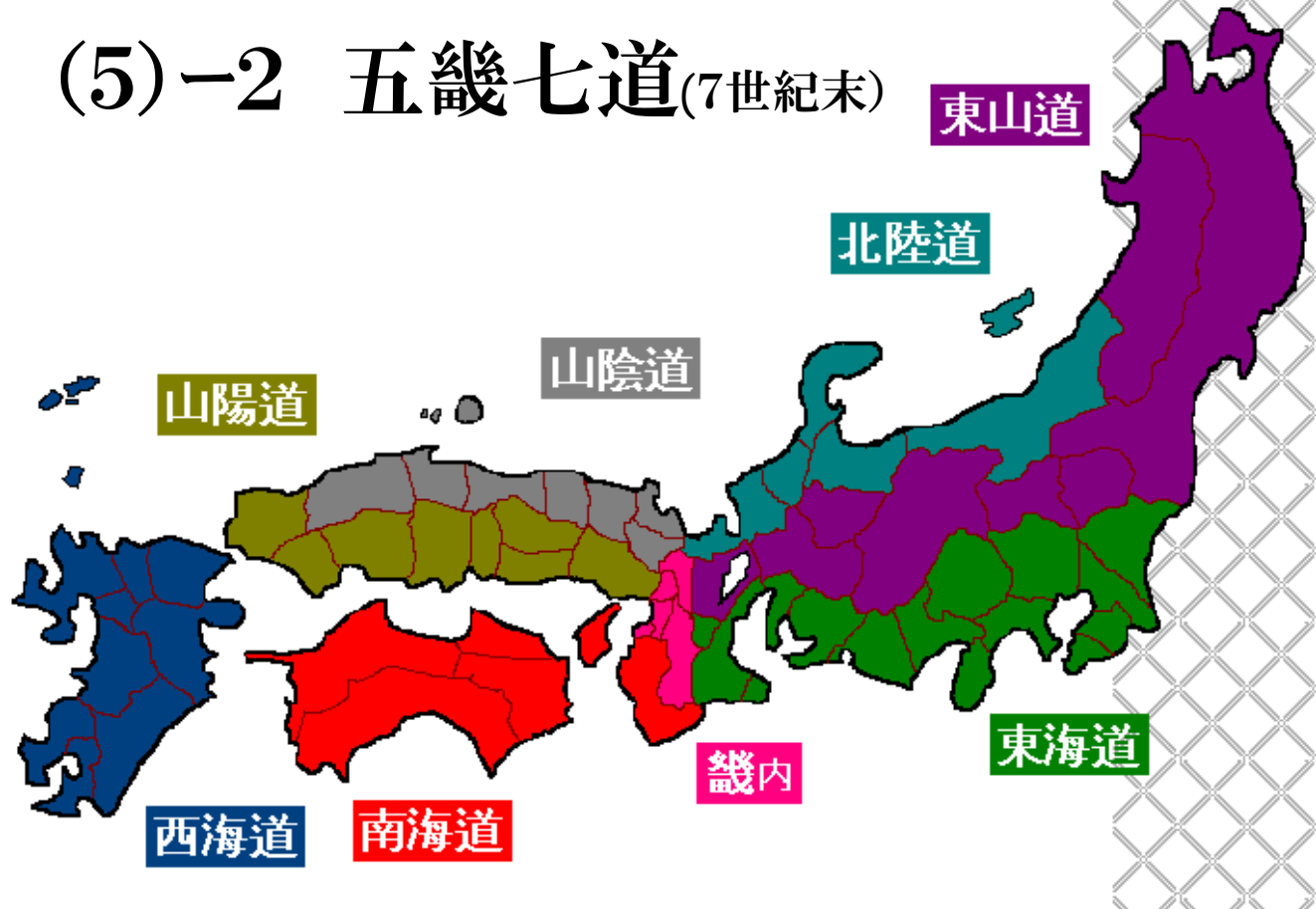
* **(大和政権の畿内と全国官道)**

- * 五畿七道は天武朝(690頃)でほぼ完成
- * (駅伝制は大化改新(645)後、天智朝で創設と言われている)
- * **五畿七道:** 古代律令制の広域地方行政区画
 - * (軍事用・官吏派遣用・租税徴収用の道路として創設)
- * **五畿とは:** 大和国・山城国・摂津国・河内国・和泉国
- * **七道とは:** 山陽道・東海道・東山道・北陸道・山陰道・南海道・西海道

(5) - 1 五畿とは（畿内図）



(5)-2 五畿七道(7世紀末)



[2] 古代の畿内官道

(1) 官道整備ステップ(大和政権)

(第1期) [国造り着手と併行] 太古(縄文)～4世紀末:

- 古代には自然発生的に生活道・獣道が誕生。
- 魏志倭人伝・神武東征・崇神天皇(四道將軍派遣)

(第2期) [大王集権化推進] 5～6世紀(河内～桜井)

- (履中～雄略)天皇の宮が「海石榴市」周辺

(第3期) [律令制官道着手] 7世紀(飛鳥時代):中国(隋・唐)

- 608年(裴世清飛鳥宮まで)、621年:推古天皇「大道を置く」
- 646年:大化の改新「駅伝制(駅馬・伝馬)」、653年:大道修理

(第4期) [律令制官道完成] 8世紀(672年:壬申の乱):

日本書紀(奈良の3官道記事)

- 壬申の乱:天武天皇側は「駅伝制」の利用と破壊。
- 天武は「上道・中道・下道」に軍を配備

1) 第3期：律令制下の官道整備

(1) 大化の改新詔(646年：詔2条)

1. 政治の中枢となる首都設置(650年難波長柄豊崎宮)
2. 畿内・国・群等地方行政組織の整備と境界制定
3. 中央と地方を結ぶ駅伝制の設置

(2) 「駅伝制」とは(駅路・駅屋、群路・群家の設置・整備)。

「京師(都城)を創設し、畿内の国司・郡司・関塞(セキソコ)・斥侯(ウカミ)・防人(サキモリ)・駅馬(ハイマ)・伝馬(ツタワリウマ)を置き、鈴契(スズシルシ)を造り地方の土地の区画を定める。・・・駅馬・伝馬を支給されるのは駅鈴・伝符に記された既定の数に従う。

2) 第4期：律令制下の官道完成

○律令制官道完成の証し(672以前に完成)

「壬申の乱(672)」で「天武天皇は駅伝破壊と3官道の活用」

①6月24日

「大分君恵尺(オオキタノキミサカ)、黄書造大伴(キフノミヤツコオトモ)、逢臣志摩(オウノオシマ)らを飛鳥守衛の高坂王(タカサカノオオキミ)のもとに遣わして、「駅鈴(スズ)」を求めさせた。

②7月2日

「負將軍(フケショウケン)が本營の飛鳥に帰ると、東国からの本体が続々やって来た。そこで軍分けて、それぞれ「上ツ道・中ツ道・下ツ道」に配備

③7月22日

「吹負將軍は大和の地を完全に平定、大坂を越えて難波に向かい難波の小郡(迎賓館)に留まって以西の諸国国司たちに官輪(カギ)・駅鈴(スズ)・伝印(ツタエノルシ)をたてまつらせた。

(2) 古代畿内の官道

- * **(古代の畿内官道)**

- * **1) 陸路**

- * **⑤ 奈良の官道 (南北、東西)**

- * **⑥ 河内の官道 (難波 → 奈良)**

- * **2) 水路**

- * **⑦ 古代の大坂 (河内湖、大和川、淀川)**

- * **⑧ 古代の大和川 (亀の瀬)**

1) 畿内の官道(難波⇔飛鳥)

陸路

- (河内) (奈良)
1. 南北(縦): 難波大道 ⇔ 上ツ道、中ツ道、下ツ道
 2. 東西(横): 長尾道 ~ 竜田道 ~ (北横大路、筋違道)
丹比道 ~ 横大路 ~ 飛鳥京

水路

- (奈良) (奈良~河内) (河内)
1. 飛鳥川
 2. 初瀬川
 3. 竜田川
- } ⇒ 大和川 ⇒ 難波津

峠越え

- (河内→奈良) = (西→東)へ
- (河内山脈)
1. 暗峠(生駒)、2. 竜田越、
 3. 二上山越、4. 水越峠

1) 陸路

①奈良の官道

- (南北3道) 上ツ道、中ツ道、下ツ道
- (東西2道) 南・北の横大路
- (斜め道) 筋違道、山田道
- (生活道) 山の辺の道



②奈良官道と3京 の位置関係

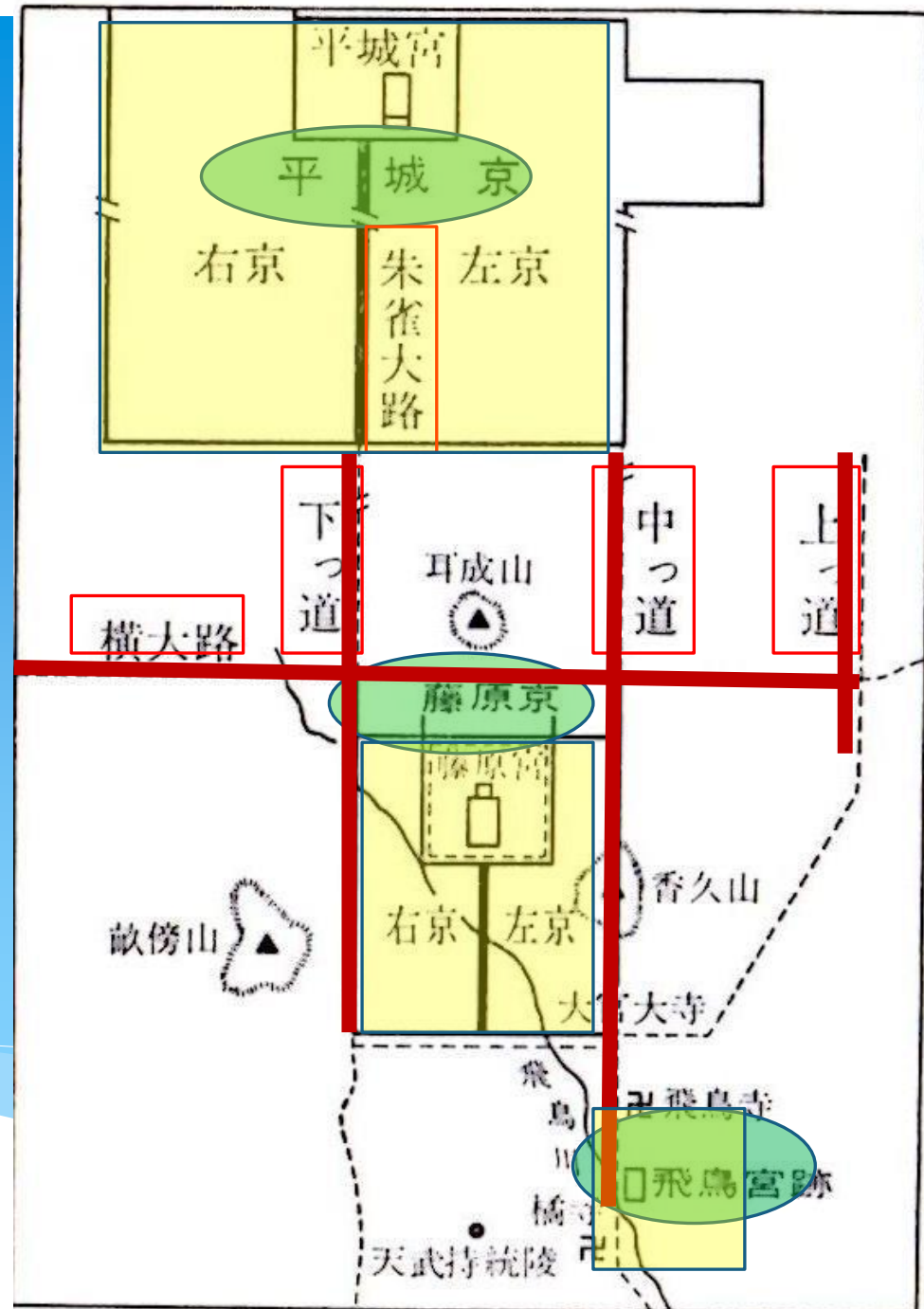
推古16年(608);

①「遣隋使・小野妹子大唐より帰朝す」
隋使・裴世清を伴い柘榴市で迎える

②隋では煬帝が大運河・150m巾の大道
路を都に建設しており、中央集権国
造りには道路整備が重要であると認
識していたと推測。

(道幅)

平城京朱雀大路	70m
下ツ道	23m
難波大道	18m
駅路一般	10～12m
伝路	6m



③ 河内の官道

官道(難波宮→堺(金岡)→奈良)

(南北道) 1道

1. 難波大道
[難波宮→堺]
(上町台地)

⇒

(東西道) 3道

1. 八尾街道(磯齒津道シハツミチ) ⇒ 竜田
2. 長尾街道(大津道)
3. 丹比道(竹内街道) ⇒ 横大路

推古21年(613): 我国最初の計画的大道に着手。

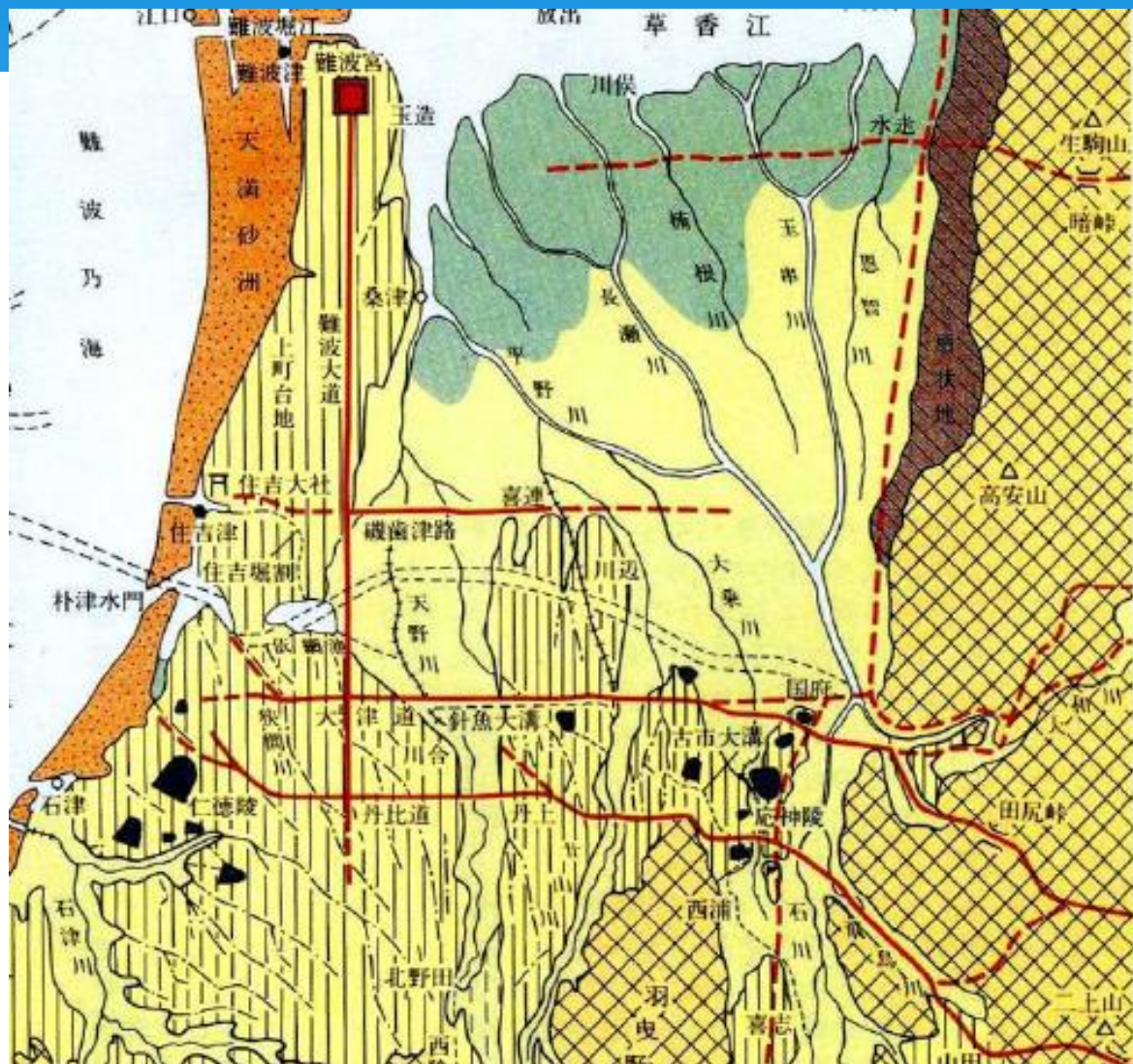
「難波より京に到る大道を置く」

④ 河内の官道

難波の大道 (日本書紀)

推古天皇21年(613);
「難波から京に至る大道
を置く」

- 1980年堺市下水処理場
工事で遺構が見つかる。
- 難波宮～竹内街道との
接点堺市・金岡神社東に
「大道町」の字名が残る



2) 水路

① 古代の大坂湾岸

1. 河内湖と大和川・淀川

- ・古代において淀川・大和川は河内湖へ
 - ・奈良河川は全て大和川へ
 - ・大和川は上町台地に遮られて北向きに河内湖へ流入。

2. 堀江の開削(仁徳天皇)

- ・「日本書紀」仁徳紀11年「天皇洪水や高潮を防さぐ為難波宮の北に水路を開削させ、河内平野の水を難波の海へ排水できるようにし、堀江と名付けた。
 - ・5世紀頃に洪水・高潮解消、河内平野の開発目的で

②河内湖と大和川（古墳時代）



③堀江開削（仁徳朝4c末～5c初）



[3] 古代の大和川

- 1. 奈良の河川と大和川**
- 2. 旧大和川(河内平野)**
- 3. 大和川難所(亀の瀬)**
- 4. 現在の「亀の瀬」**
- 5. 魚梁船(やなぶね)模型**

1. 奈良の河川と大和川



2.旧大和川 (河内側)

図2

旧大和川の川筋



3. 亀の瀬 (大和川の難所)



4. 現在の亀ノ瀬（浅瀬）



5. 魚梁(やな)船・模型

(上流:浅底の魚梁船、下流:剣先船)



「亀の瀬」の上流の運船:



〇おわり